

## The Fourth Case of Human Infection with *Clinostomum* (Trematoda : Clinostomidae) in Saga Prefecture, Kyushu, Japan

Teiji KIFUNE<sup>1)</sup>, Masamichi ODA<sup>2)</sup>, Masaharu WASHIZAKI<sup>2)</sup>,  
Aya KAKIZOE<sup>3)</sup> and Akira INOKUCHI<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> Department of Parasitology, School of Medicine, Fukuoka University, Fukuoka

<sup>2)</sup> Yuuikai Oda Hospital, Kashima, Saga

<sup>3)</sup> Department of Otolaryngology, Saga Medical School, Saga

**Abstract :** A gravid fluke was obtained from the surface of the left portion of the arytenoid in a 27-year-old man residing in Kashima City, Saga Prefecture, Kyushu. His main complaint on his throat was a pain which began 3 days after the ingestion of raw carp meat. A crawling fluke was easily removed and was identified to be *Clinostomum complanatum* (Rudolphi, 1814). This is the fourth case of human clinostomiasis in Saga Prefecture, Kyushu, and the 19th case in Japan. The infection probably occurred after eating raw carp meat at a city restaurant.

**Key words :** *Clinostomum complanatum*, human case, Saga Prefecture, carp

### 佐賀県からの *Clinostomum* 属吸虫の人体寄生第 4 例

木船 悌嗣<sup>1)</sup> 織田 正道<sup>2)</sup> 鷺崎 政治<sup>2)</sup>  
柿添 亜矢<sup>3)</sup> 井之口 昭<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>福岡大学医学部寄生虫学教室

<sup>2)</sup>祐愛会織田病院

<sup>3)</sup>佐賀医科大学耳鼻咽喉科学教室

**要旨 :** 咽頭痛を主訴とする佐賀県鹿島市在住の27歳の男性の左披裂部の表面に付着し蠕動する虫体1隻を摘除し、二生吸虫類の Clinostomidae に属する *Clinostomum complanatum* (Rudolphi, 1814) と同定した。これは佐賀県下から4例目の本種の人体寄生例となり、我が国における *Clinostomum* 属吸虫の人体寄生第19例となる。感染源は同市内の一食堂で食べたコイの洗いと推定された。

**索引用語 :** *Clinostomum complanatum*, 人体寄生例, 佐賀, コイ

## はじめに

*Clinostomum complanatum* (Rudolphi, 1814) は淡水魚を第二中間宿主として本来鳥類の上部消化管（咽頭部）に寄生する吸虫の1種で、まれに人の咽喉頭部の粘膜上に吸着して不快感あるいは痛みを与えるが、外科的に摘除することで完治するという比較的診断・治療の容易な寄生虫である。*Clinostomum* 属吸虫の人体寄生例は現在までに日本では北は秋田県から、南は熊本県まで17(+1)例が報告されており<sup>9)</sup>、うち8例については原因虫は *C. complanatum* と同定されているが、そのほかの症例では単に *Clinostomum* sp. と記されている。また韓国からも *C. complanatum* と同定された1例報告がある<sup>4)</sup>。佐賀県からは過去に3例いずれも成人女性の症例が報告されているが<sup>7)9)10)</sup>、このほど成人男性に寄生した症例に遭遇したので、報告しておきたい。

## 症 例

患者：M.T., 27歳, 男性

住 所：佐賀県鹿島市浜町

主 訴：咽頭痛

初診日：2002年8月27日

現病歴：2002年8月14日、昼食時にある食堂において近親者とともに会食をした際に出されたコイの洗いを食べた。8月17日ごろより咽頭痛や咽喉頭異常感が出現、症状が続いたため、8月27日織田のもとを受診。

現 症：喉頭内視鏡にて左披裂部にアメーバ状に動く虫体1隻を発見したので、全身麻酔下に喉頭直達鏡を挿入し、顕微鏡下にて虫体を摘出した。摘出後痛みは消失した。他に検査は行っていない。

織田は過去に取り扱った経験がある吸虫類の1種であろうと判断して、摘除した虫体を70%エタノールに投入し、精査のため木船のもとへ届けた。

## 結果と考察

摘出し70%エタノールに保存された虫体は木船のもとで、圧平の上、再度ブアン液で固定し、型のごとくミョウバンカーミンで染色・脱水し、キシレンで透化したのちパーマウントで封入した。

標本所見：体形は長紡錘形を呈し、体長 4.96mm、体幅はちょうど中央部で最も幅広く 1.78mm。体表に皮

棘は認められず、平滑。口吸盤は幅広く偏平楕円形で、縦径 0.17mm、横径 0.35mm。腹吸盤はほぼ円形で、口吸盤のすぐ後ろに位置し、縦径 0.76mm、横径 0.85mm とわずかに幅のほうが大きい。その開口部は大きく著明ではほぼ円形であるが、開口部の前縁が後方に突出しているため、一見ハート形。虫体はよく成熟しており、子宮内卵は極めて多く、数百個に達し、大部分は腹吸盤の直後にある子宮前半部に充満して、後半部の方は比較的少数であった。卵はほぼ楕円形で、小蓋は不明瞭、その大きさは 0.110-0.120×0.070-0.080mm、内部にはまだ何らの構造も認められなかった。感染から摘除までの期間が2週間近くと長かったことが多数の虫卵を生じさせるに至ったものと考えられる。前精巣は子宮前半部の直後に認められたが、子宮後半部の後ろにあるはずの後精巣は萎縮したのか極めて不明瞭であった。卵巣は前精巣の斜め後ろに位置していた (Fig. 1)。これらの内部諸器官の構造から病原虫は従来の症例と同様に *Cli-*

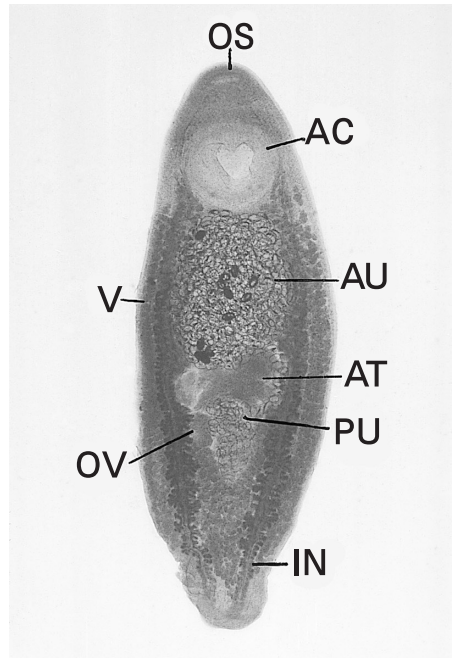


Fig. 1. Ventral aspect of the fluke removed from the arytenoid of a 27-year-old man.

AC, acetabulum; AT, anterior testis; AU, anterior portion of uterus; IN, intestines; OS, oral sucker; OV, ovary; PU, posterior portion of uterus; V, vitellaria.

*stomum complanatum* (Rudolphi, 1814) と同定された。佐賀県下では1989年に第1例目の患者(女, 54歳, 塩田町在住)が発見・報告<sup>10)</sup>されて以来, 1994年に第2例(女, 37歳, 小城町)<sup>7)</sup>と第3例(女, 40歳, 鹿島市)<sup>8)</sup>が相次いで報告されている。今回の虫体全体の特徴は上記のうちの第3例の虫体と最もよく似ているが, 卵黄巣や腸管はそれよりも遥かによく発達していた。第3例では寄生に気付いてから3日目に受診・摘除されているのでこの差は寄生期間の違いによるものと思われる。

過去の佐賀県の3例のうち第1例はコイを生食して感染したことがわかっているが, 他の2例については感染源ははっきりしていない。日本産の淡水魚で *C. complanatum* の被嚢幼虫の感染が認められたものはフナ・コイを初めとして9種に達している<sup>1)</sup>。今回の患者が食べたコイは同席した約10名も食べているが, 幸い他に発症したものはなかったようである。食堂で出されたものゆえ, コイの採取場所・サイズ等は不明であるが, 恐らく出入りする業者から入手したもので, 近郊で捕獲されたかあるいは飼養されていたものと思われる。

我が国では本吸虫の第一中間宿主についての野外調査はないが, 実験的にはモノアラガイとヒメモノアラガイへの感染に成功しているし<sup>3)</sup>, 韓国での調査結果ではモノアラガイ朝鮮亜種 (*Radix auricularia coreana*) から本吸虫の幼生を見だして第二中間宿主の魚(モツゴ)への感染実験に成功しており<sup>6)</sup>, 本邦でもモノアラガイやヒメモノアラガイが生息しているような水域で採れたコイ・フナなどの淡水魚の生食は避けた方がよいと考えられる。

過去に日本で見つかった18例の人体症例のうち男性はたった4例にすぎなかったが, 今回は珍しく男性の患者であった。これで佐賀県下からは4例目, 九州では6(+1)例目の *Clinostomum* 属吸虫の人体寄生例となる。この結果, 府県別では佐賀県は島根県と並んでともに4例と最も症例数が多くなり, その外は秋田, 富山, 愛知, 岐阜, 滋賀, 大阪, 広島, 山口, 長崎, 熊本, [福岡一口頭発表のみ]の各1例である。なお, 本報の分も含めて佐賀県下からの標本はすべて福岡大学医学部寄生虫学教室に保管されている。

標本の染色と撮影をしていただいた寄生虫学教室の岩田久寿郎助手に謝意を表す。

## 参 考 文 献

- 1) Aohagi, Y. et al.: *Clinostomum complanatum* (Trematoda: Clinostomatidae) in five new fish hosts in Japan. J. Wildl. Dis., 28: 467-469, 1992.
- 2) Aohagi, Y. et al.: *Clinostomum complanatum* (Trematoda) infection in freshwater fish from fish dealers in Tottori, Japan. J. Vet. Med. Sci., 55: 153-154, 1993.
- 3) Aohagi, Y. et al.: Experimental infection of some species of freshwater snails with *Clinostomum complanatum* (Trematoda: Clinostomatidae). Jpn. J. Parasitol., 42: 493-498, 1993a.
- 4) Chung, D.-I. et al.: The first human case of *Clinostomum complanatum* (Trematoda: Clinostomatidae) infection in Korea. Korean J. Parasitol., 33: 219-223, 1995.
- 5) Chung, D.-I. et al.: Demonstration of the second intermediate hosts of *Clinostomum complanatum* in Korea. Korean J. Parasitol., 33: 305-312, 1995a.
- 6) Chung, D.-I. et al.: *Radix auricularia coreana*: Natural snail host of *Clinostomum complanatum* in Korea. Korean J. Parasitol., 36: 1-6, 1998.
- 7) 木船悌嗣・上坂政勝: 佐賀県における *Clinostomum* 属吸虫の人体寄生第2例. 福大医紀, 21: 99-103, 1994.
- 8) 木船悌嗣・織田正道・梅崎俊郎: 佐賀県における *Clinostomum complanatum* (吸虫綱: Clinostomidae) の人体寄生第3例. 福大医紀, 21: 111-117, 1994.
- 9) 木船悌嗣・緒方正彦・宮原道明: 山口県から初めての *Clinostomum* 属吸虫人体寄生例. 福大医紀, 27: 101-105, 2000.
- 10) 梅崎俊郎・進 武幹・織田正道・木船悌嗣・茂木幹義: 咽喉頭異常感を主訴とした喉頭の *Clinostomum complanatum* 寄生虫症の一例. 耳鼻と臨床, 36: 665-668, 1990.

(平成15. 2. 4受付, 15. 3. 6受理)